

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	スパースモデリングの深化と高次元データ駆動科学の創成
領域代表者	岡田 真人（東京大学・大学院新領域創成科学研究科・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、多量かつ多次元のデータを少変数モデルに還元することで有意義な情報を抽出するスパースモデリングの手法を、宇宙地球科学分野と生命科学分野の先端研究に実践応用することにより深化させ、計測データから知見情報を効率的に獲得するための分野横断的な方法論を確立するとともに、これに基づいたデータ駆動型の科学の創成を目指す提案である。</p> <p>計測機器の進歩により大量のデータ収集が容易になった現在、多くの分野でその解析手法が求められており、多分野の計測データに適用可能な情報科学的手法を普遍的学問として高め、幅広い科学分野の発展につなげようとする本提案は時宜を得ており、高い波及効果が期待される。研究組織は実績のある多分野の研究者で構成されており、分野が異なる研究者間の連携が本質的に重要である。領域代表者のこれまでの研究プロジェクトのマネジメント経験を活かし、融合支援員を置くなど本領域に参画する研究者が共同研究を推進するための工夫がなされている点に期待したい。また、若手研究者の育成に配慮されている点は評価できる。</p> <p>一方で、この分野は国際的にも進展が早いため、情報処理・解析の一手法に終わってしまうのではないかとの意見もあった。ビッグデータを取り扱うプログラム手法の中での本領域の位置付けや領域としての 5 年後の到達点を明確にした上で、研究を推進していくことが望まれる。</p>